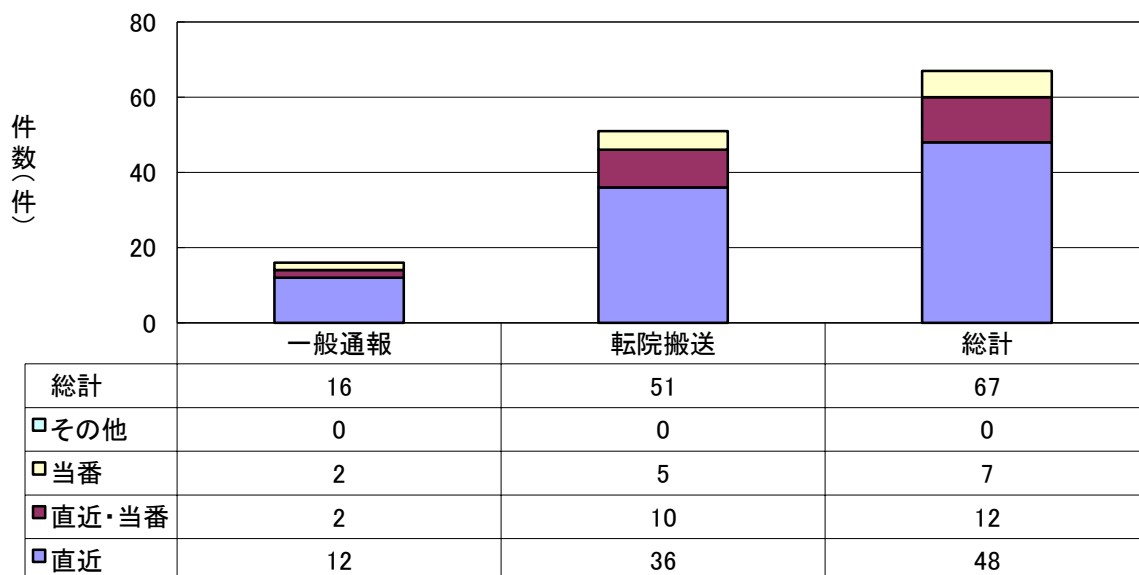


# 東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

平成26年4月1日から平成26年9月30日報告受理分 67件

## 1 搬送の種類

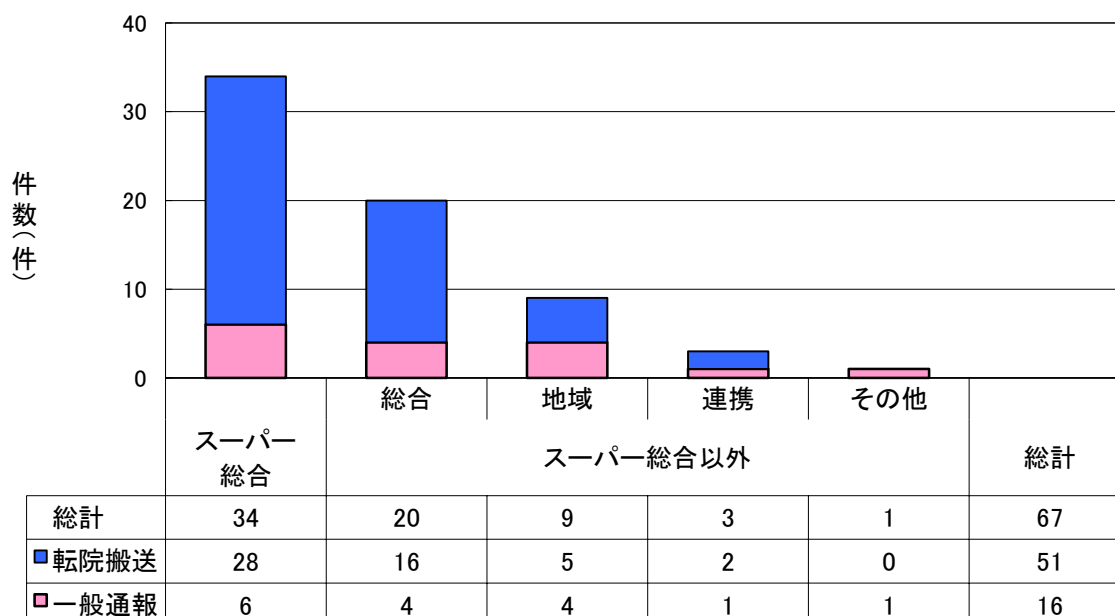
- 一般通報が16件(24%)、転院搬送が51件(76%)となっている。
- 一般通報、転院搬送とも約9割が直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
- ※ 当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター



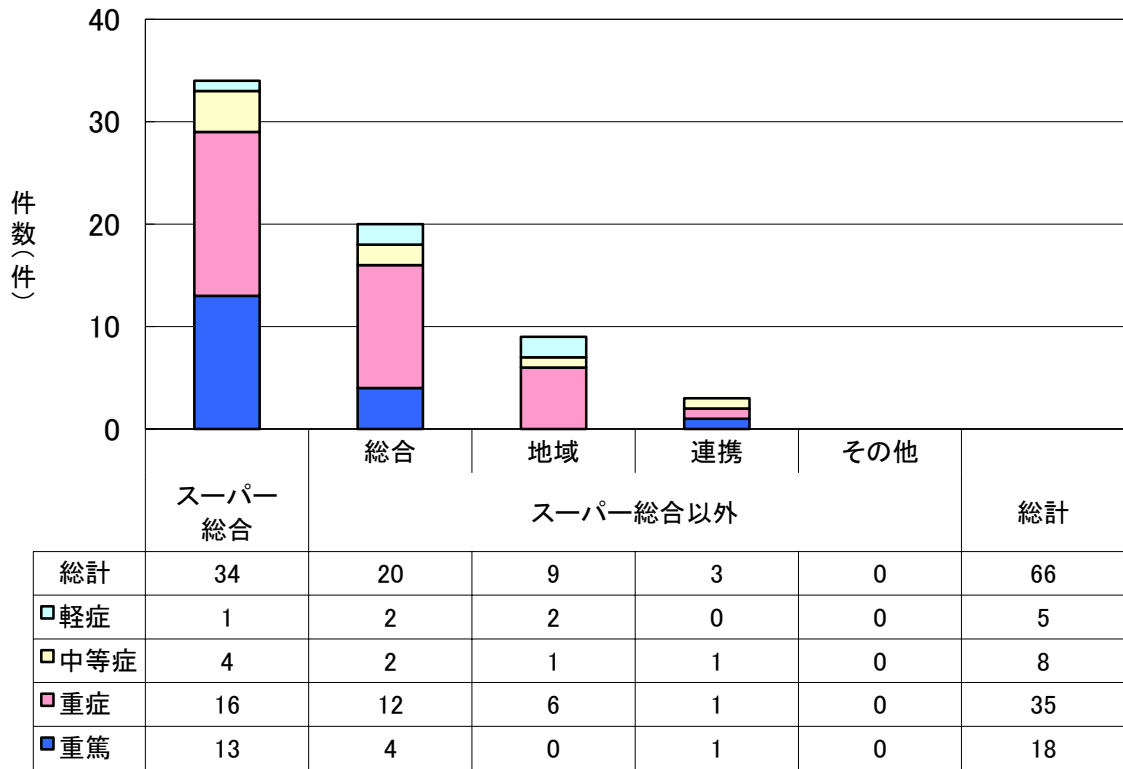
## 2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター4病院には、転院搬送では28件、一般通報では6件、計34件(51%)が搬送された。
- スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、54件(81%)が搬送された。

### (搬送の種類別)



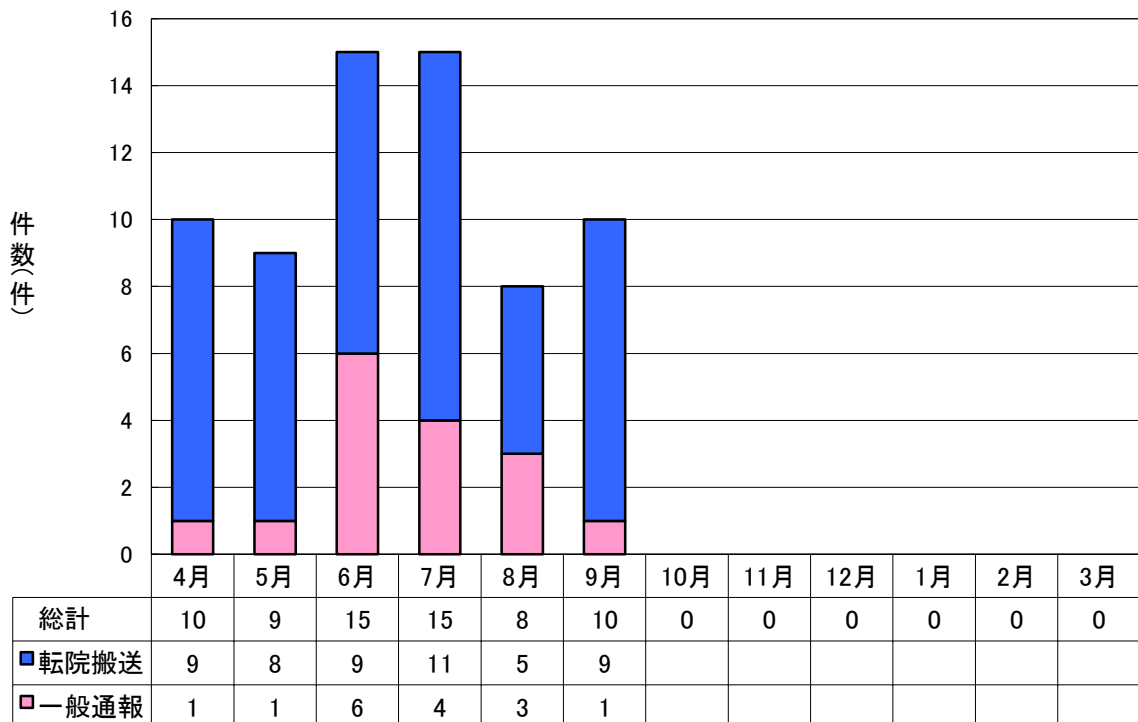
(重症度別)



(調査中1例)

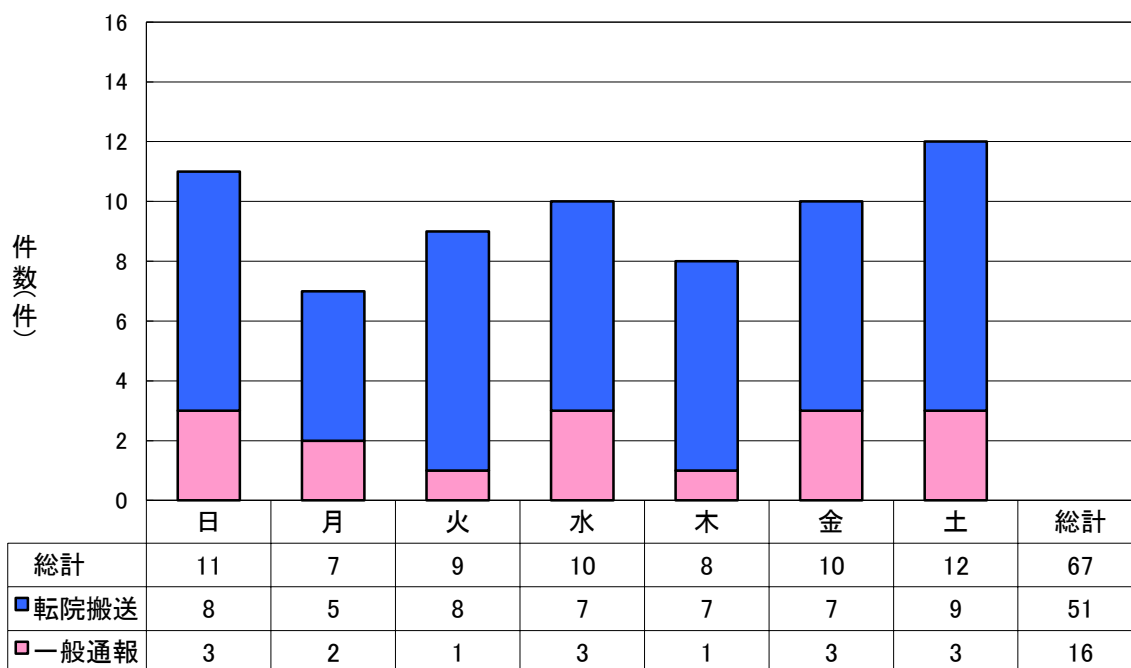
3 月別（搬送の種類）

- 発生件数は月平均11件で、6月、7月の15件は過去最多であった。
- どの月も転院搬送のほうが多かった。



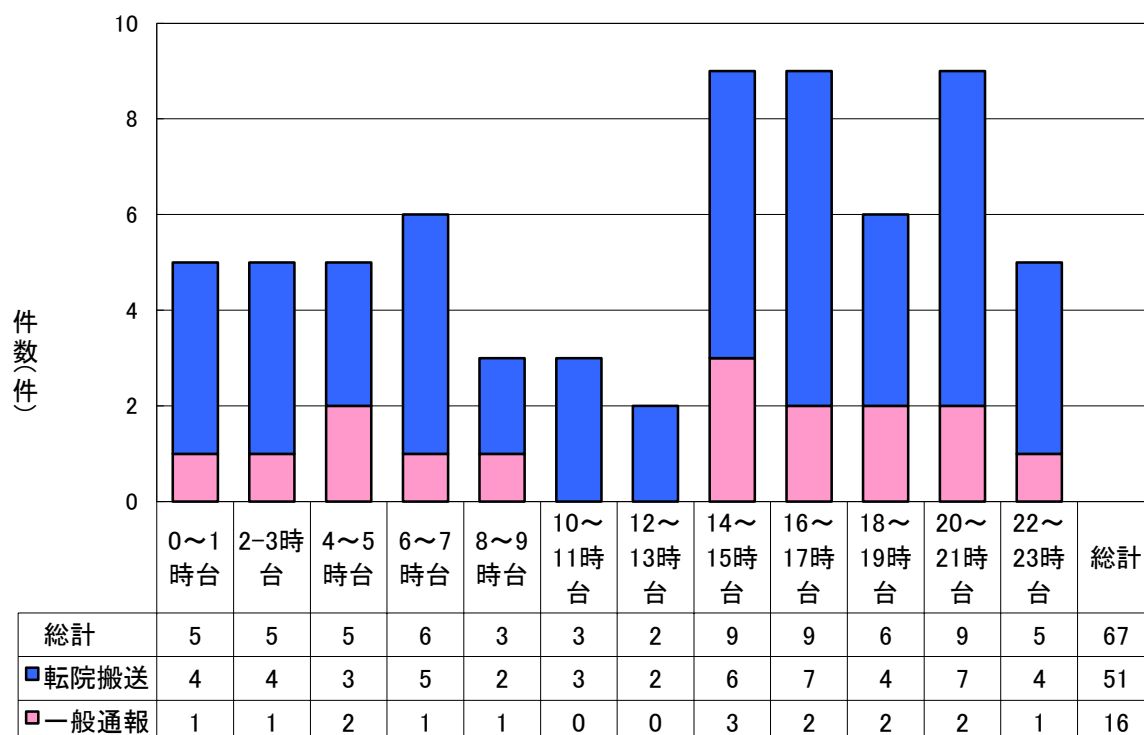
#### 4 曜日別（搬送の種類）

○ 転院搬送は土曜日、日曜日及び火曜日の順が多かった。



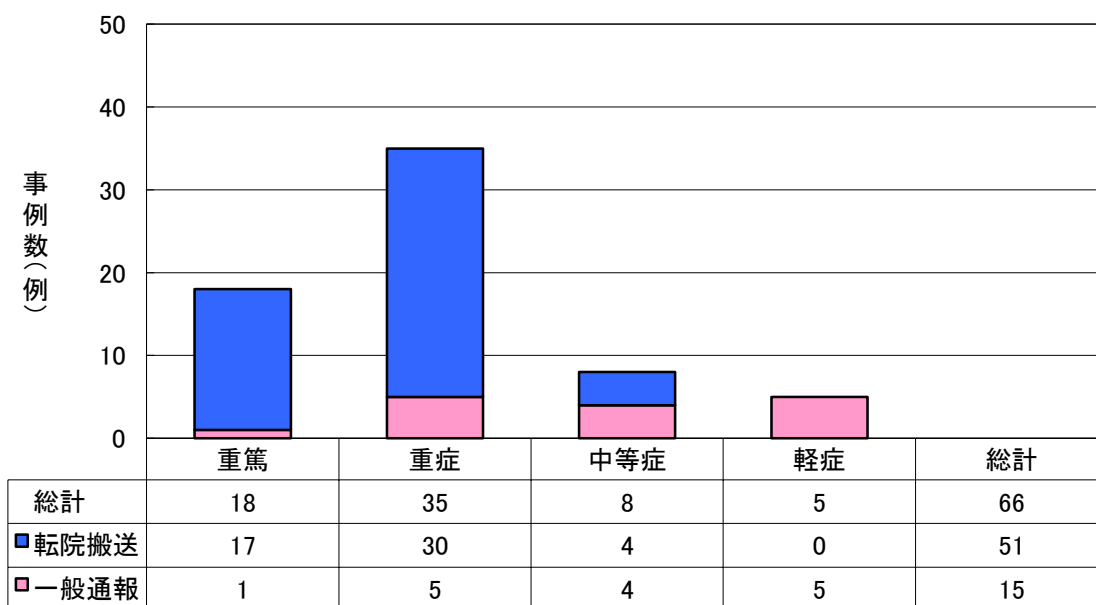
#### 5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は14～15時台、16～17時台、20～21時台が多い。



## 6 母の重症度（病院報告）

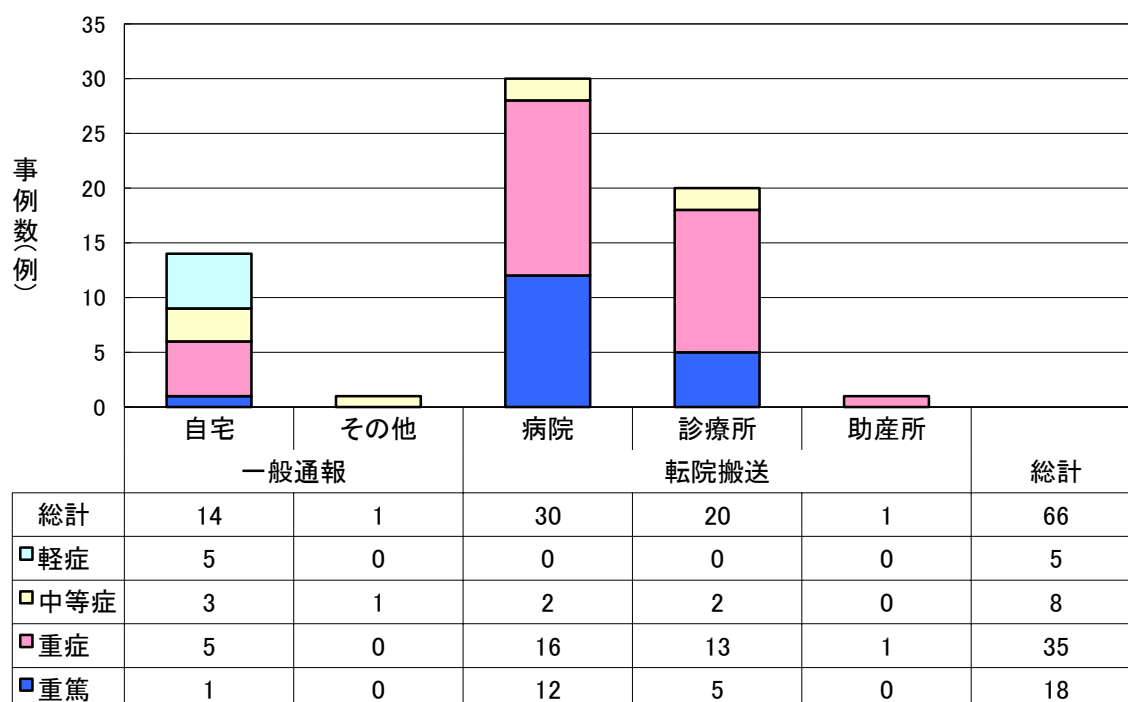
- 病院で確定診断が出てからの重症度では、重篤が18例(27%)、重症が35例(53%)であり、66例中53例(80%)がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
- 重症以上では転院搬送の割合が多く、軽症は一般通報のみであった。



(調査中1例)

## 7 搬送元医療機関等

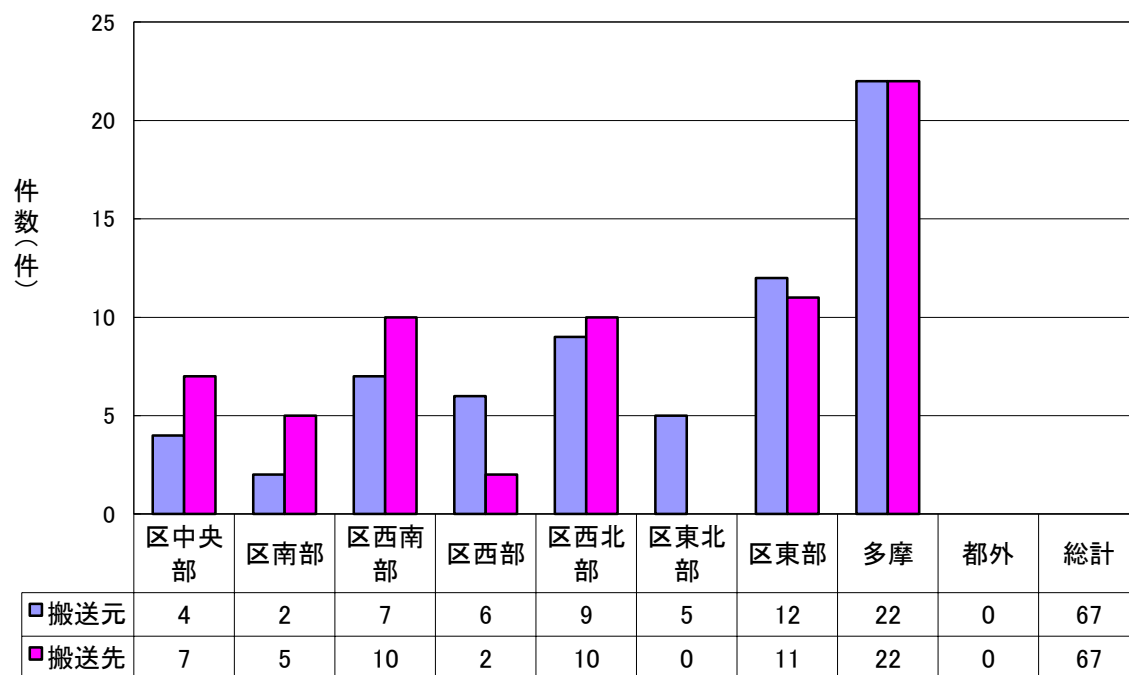
- 一般通報はほとんどが自宅からの搬送で、14件(93%)であった。
- 転院搬送は、病院からの搬送が30件(59%)が多かった。



(調査中1例)

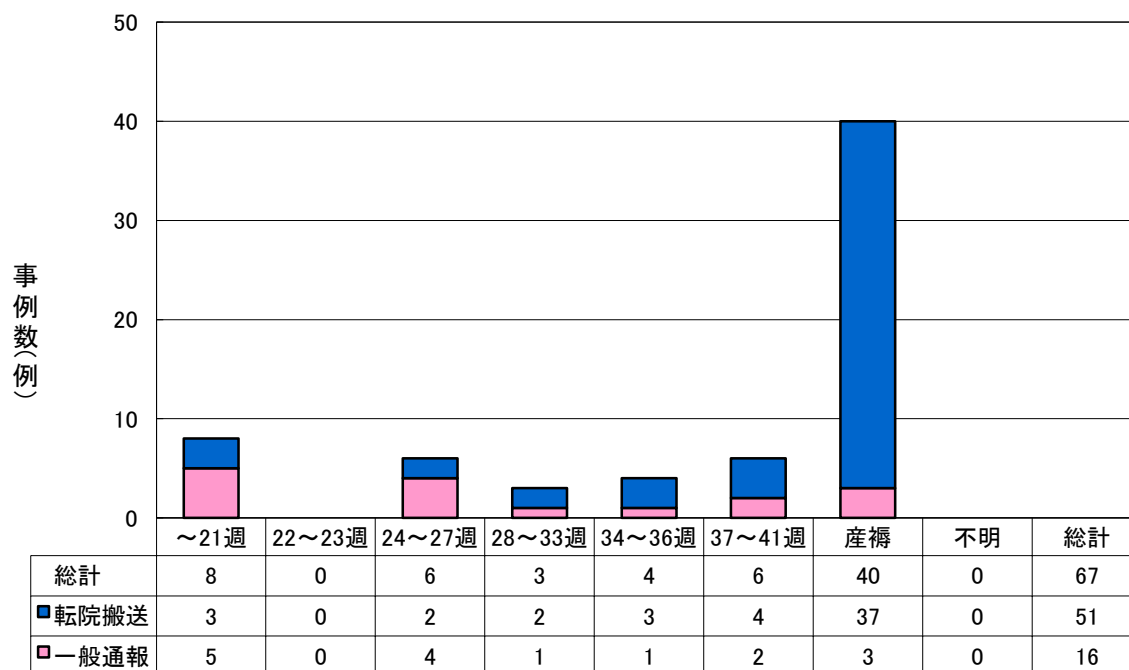
## 8 ブロック別搬送元及び搬送先

- 搬送元ブロックは、多摩、区東部、区西北部が多い。
- 受入となる搬送先ブロックでは、多摩、区東部、区西南部、区西北部が多い。



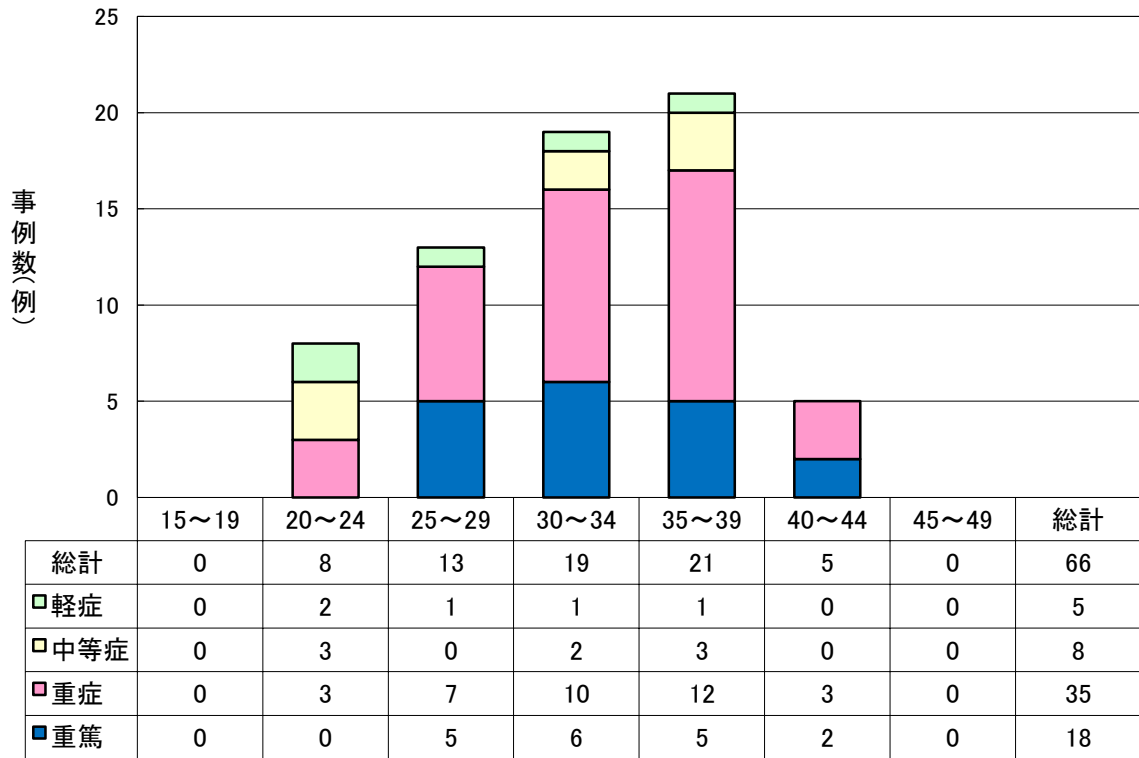
## 9 週数

- 産褥が40例(60%)で最も多かった。
- 21週以下は異所性妊娠や流産等であった。



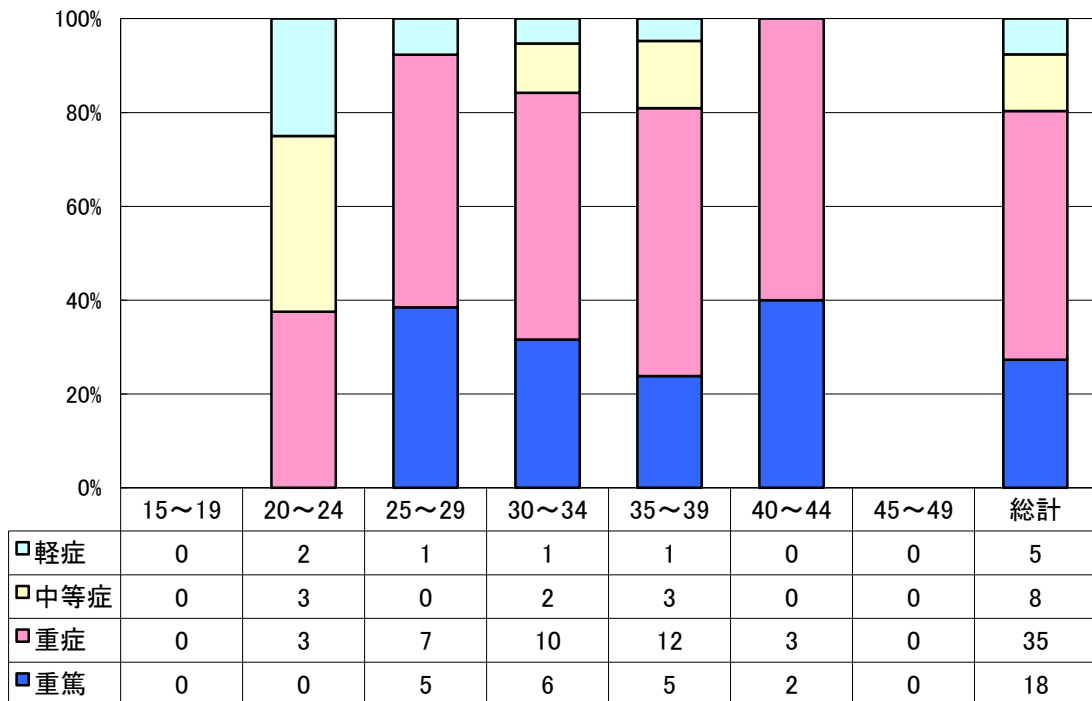
## 10 母の年齢（母の重症度別）

○ 年齢別で見ると30代が40例（61％）で、発生件数が最も多い。



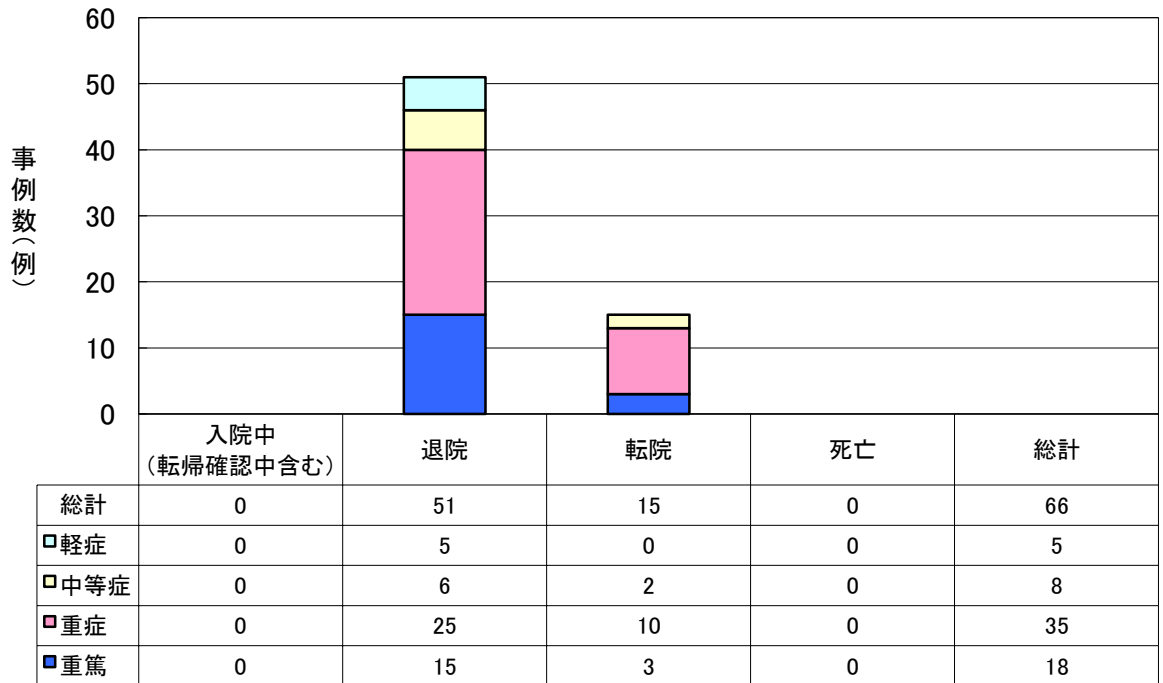
（調査中1例）

（割合）



## 11 母の転帰（母の重症度別）

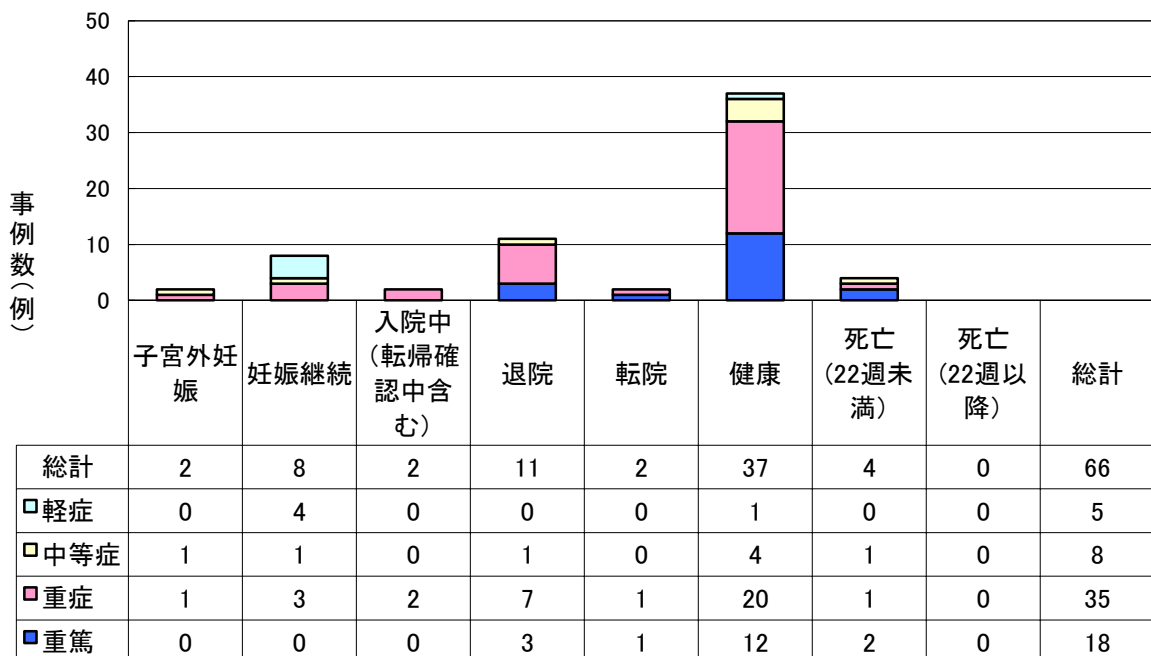
- 51例(77%)が退院し、15例(23%)が搬送元等に転院した。
- 死亡は0件であった。



(調査中1例)

## 12 児の転帰（母の重症度別）

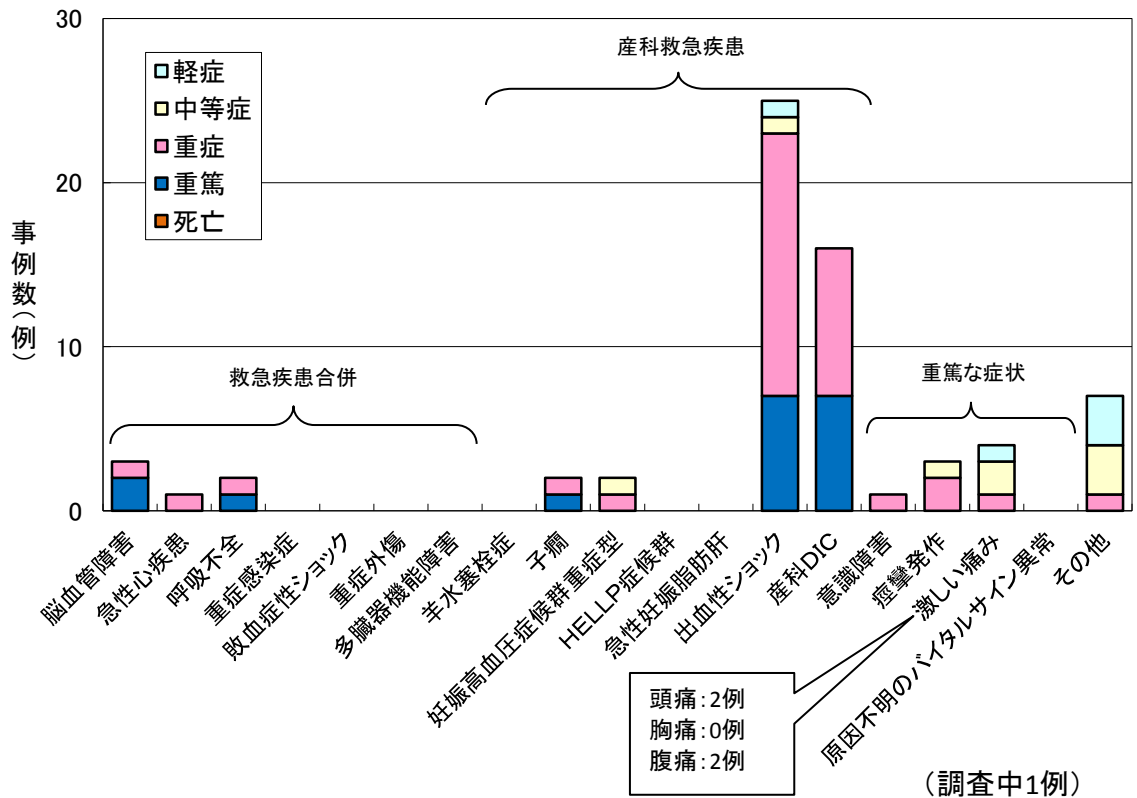
- 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が多い。
- 22週以降の死亡は0件であった。



(調査中1例)

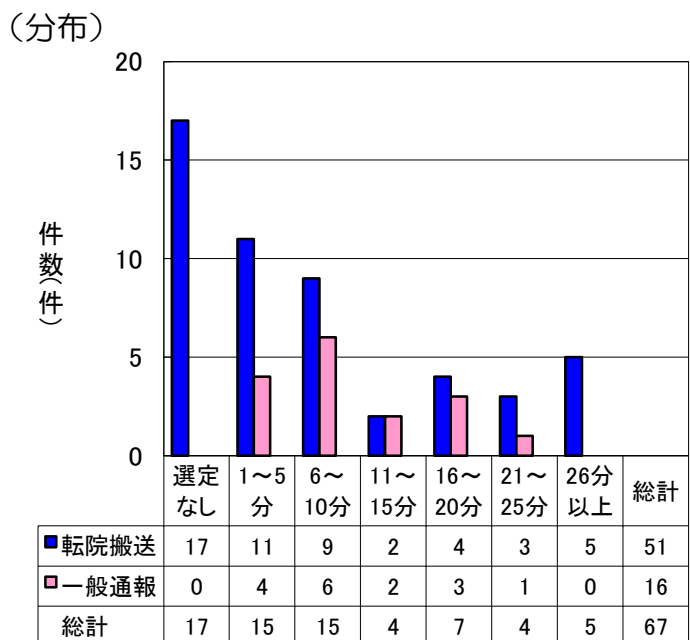
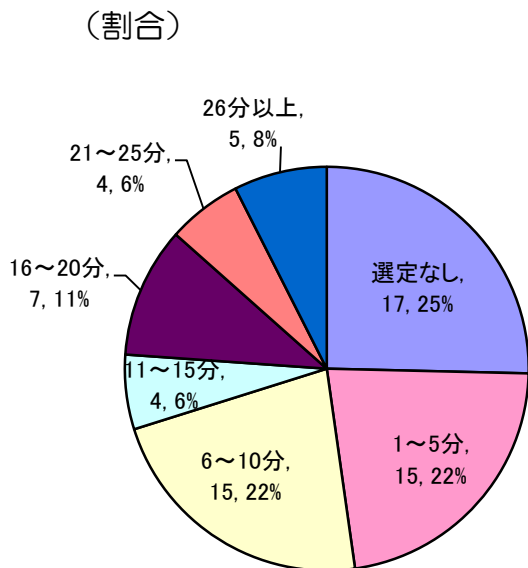
### 13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）

○ 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、産科DICが多い。



### 14 病院選定時間（平均11.9分、中央値9.0分、「選定なし」含まず）

○ 病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均12分であった。  
※ 選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合

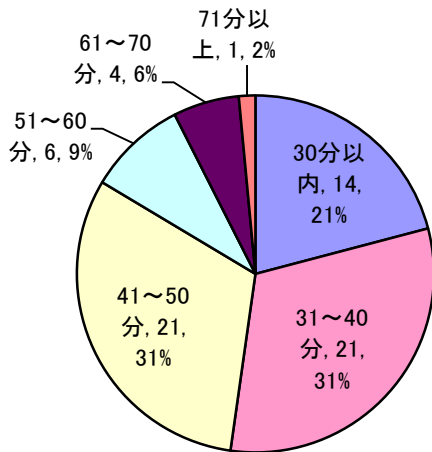




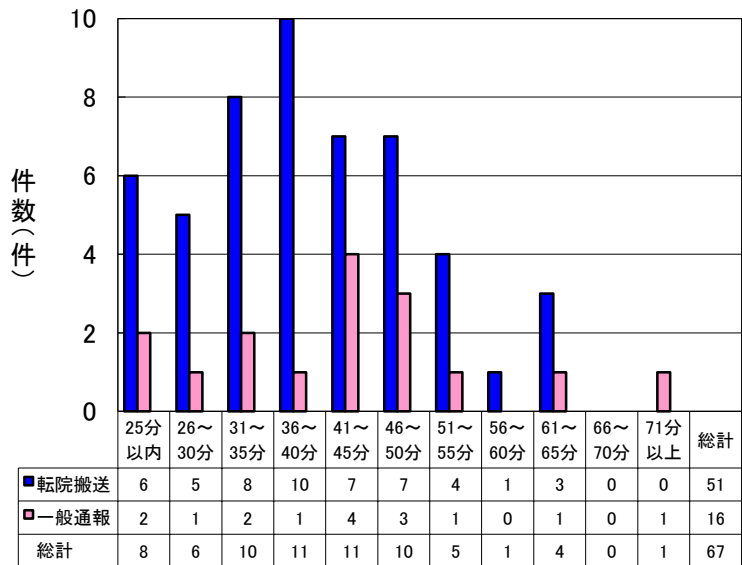
### 15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均41.1分、中央値40.0分)

- 覚知から病着までの時間の多くは50分以内であった。
- 60分を超えるものは5件(8%)であった。

(割合)



(分布)



### 16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

- 転院搬送は、一般通報に比べ、現場に到着してから現場を出発するまでの時間が短い傾向にある。
- 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては病院決定まで平均13分程度となっている。

